

口絵1



写真1 上段：すべてチャート

下段 左から：珪質ノジュール①，珪質ノジュール①，珪質頁岩，珪質石灰岩，
メノウ，メノウ，ジャスパー，ジャスパー



写真2 珪質ノジュール②



写真3 黒曜石

左から：透過光において灰色，緑色，緑色，緑色，漆黒色

タル・イ・ジャリ A 遺跡石器群

タル・イ・ジャリ A 遺跡石器群 2,500 点余りの中でチャートは約 85% を占める。色は多様であり放散虫遺骸が観察できるものとできないものが存在するが、いずれも珪質度が高い。チャートに次いで 2 番目に石器点数の多い珪質ノジュール①とともに剥離に適した石材として好まれていた。放散虫チャートも珪質ノジュール①もジャリ A 集落付近で容易に採集できるものではなく、これらの原石を獲得するためにある程度の移動や取引が生じていたものと想定される。

一方、総重量でチャートの次に多く、珪質ノジュール①の倍以上に当たる約 16% の割合を占めるのが珪質ノジュール②である。これは石灰岩中で珪質生物遺骸から溶け出した二酸化珪素が珪質ノジュールを形成していく途中で泥などの不純物が大量に混ざったためにできた粗質の岩石である。割れ面は非常に粗く、剥離作業を規則的に続けることが困難であるため、直接打撃による不定形の分厚い未加工剥片類がほとんどである。しかし、写真 2 左側の搔器のように、その重量を生かした大型道具も 2 点のみ存在する。

黒曜石は 12 点のみであるが、石核とトサカ状稜付き石刃が存在するため、加工がジャリ A 集落内で行われていた可能性が高い。透過光で緑色に見える黒曜石が存在することから、南東アナトリア地方と石材のやり取りを含む交易がおこなわれていたことが確実視される。

中村 真衣子